

2017年 7月 12日  
東日本旅客鉄道株式会社  
株式会社ジェイアール東日本ビルディング

## オフィスビルのBCP機能を強化します

○JR 東日本が所有する主要な既存オフィスビルについて、BCP(事業継続計画)に関する機能を強化し、お客さまに更なる「安全・安心」を提供いたします。

○実施コンセプトを、「耐える・留まる・安心する」と定め、2017年度より5か年計画で進めてまいります。

○今回機能強化するオフィスビルは、グラントウキョウサウスタワー、サピアタワーをはじめとしたオフィスビル8棟で、総投資額は約63億円です。

○JR 東日本グループのオフィスビルでは、今後もソフト面・ハード面あわせてお客さまへ「安全・安心」を提供してまいります。



グラントウキョウサウスタワー



サピアタワー

### 1. 実施コンセプト「耐える・留まる・安心する」について

JR 東日本グループでは、BCPに対するニーズの高まりを受け、以下のBCP機能強化実施コンセプトを定めました。

耐える	主要設備を含めた大規模地震にも耐えるビル強度の提供 【動線確保・主要設備の耐震性向上】
留まる	災害発生時、ビルに留まることができ、業務継続が可能な環境の提供 【滞留時のインフラ確保】
安心する	留まることに安心できるビル価値の提供 【お客さまへ適切な情報を提供】

## 2. 今回実施対象のオフィスビルについて

今回対象とするオフィスビルは、以下の8棟です。

JR 恵比寿ビル(1997 年)、JR 品川イーストビル(2004 年)、サピアタワー(2007 年)、  
グラントウキョウサウスタワー(2007 年)、グラントウキョウノースタワー(2007 年)、JR 南新宿ビル(2012 年)、  
JR 神田万世橋ビル(2013 年)、JR 新宿ミライナタワー(2016 年)

※括弧内は竣工年

※今回対象外のオフィスビルについても、継続して検討してまいります。

## 3. 主な実施項目について

グラントウキョウサウスタワー、サピアタワーの対策項目は以下8項目です。

コンセプト	実施事項
耐える	①エレベーター耐震性能向上 主要なエレベーターについて、耐震性能の向上や長周期管制システムの導入を行い、エレベーターの安全性を高めます。
	②エレベーター自動復旧システム導入 地震等によるエレベーター自動停止後の自動復旧システムを導入し、迅速な動線の復旧を行います。
	③天井耐震性能の強化 特定天井(6mを超える高さにある 200 m <sup>2</sup> 超のつり天井)、帰宅困難者受入エリア等の天井について落下防止措置を施し、安全性を高めます。
留まる	④停電時の電力供給強化 停電時にも主要設備の他、テナント企業の取組みに合わせて専用部に 15VA/m <sup>2</sup> の電力を 72 時間供給できるよう、非常用発電機を増強し、企業の事業継続をサポートします。
	⑤衛生対策 断水時においても、原則 72 時間トイレが利用できるよう改修を行い、企業の事業継続をサポートします。
	⑥浸水対策 外構部の防潮板強化等を実施し、洪水等によるビルへの浸水被害を低減します。
安心する	⑦被災度判定システム導入 大規模地震発生時に、センサーで建物の推定被災状況を早期に把握します。
	⑧情報発信モニター設置 エントランス等にモニターを設置し、災害時に必要な情報提供を行います。

※グラントウキョウサウスタワー、サピアタワー以外の今回対象オフィスビル6棟についても、上記に準じた対策を進めてまいります。